

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系・教授

氏 名 早川 裕隆

研究期間 平成29年度～平成30年度

研究プロジェクトの名称	「いじめ問題への対応の充実を図る道徳科授業の開発とその普及～いじめ防止に関わる役割演技を用いた道徳授業の開発と、指導者用ビデオの作成を通して～」
研究プロジェクトの概要	<p>目的： 止むことを知らない学校におけるいじめ問題について、いじめ問題への対応の充実をその内容の一つとした「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の果たすべき役割に期待されている。一方、道徳科では、「考え、議論する道徳」への質的転換が求められ、「質の高い多様な指導方法」として、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 ②問題解決的な学習 ③道徳的行為に関する体験的な学習 が例示された。この③の代表が、役割演技である。役割演技は、活用によっては効果的ではあるが、逆に、使い方を間違えると、児童・生徒に大きな心理的なダメージを与えかねない。しかし、役割演技は他の指導方法と違い、日常的に用いられているものではないために、その理解や活用は十分とは言えない。そこで、本研究では、いじめ問題への対応の充実を内容とする役割演技による道徳科の授業開発を行うことを目的とし、本研究の成果を指導者用の授業事例として紹介しながらその普及を目指せるようにすると共に、将来的に教師用の研修教材としての動画の作成の可能性を探る。</p>
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>初めての道徳教科書と言うこともあり、教科書の採択期間が平成29年4月1日～9月16日であったものの、平成30年4月1日までは、教科書を購入することも、「研修用見本」やいわゆる見本本を手に入れることもできないよう、教科用図書取り扱いがこれまで以上に厳格化された。そのため、入手が可能になるまで、文部科学省の「わたしたちの道徳」を教材とした授業開発を行うとともに、上越市内の小学校や免許状更新講習、千葉大学附属小学校での授業実践によって広く提供できる指導案を開発し、授業実践の形で発表した。また、教科書の購入が可能になってから、他学年、多教材による授業開発を行い、授業実践の形で、広く普及を目指した。</p>
研究成果の発表状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度学校支援プロジェクトでの授業実践 ・日本道徳教育学会第89回大会（平成29年7月）における公開研究授業における開発授業の実施、公開（千葉大学附属小学校 八木橋朋子教諭による実施） ・筑波大学附属小学校学習公開・初等教育研修会における開発授業展開と開発授業に関する発表（平成30年2月10日） ・大学院授業、免許状更新講習などにおける開発授業の展開 ・日本心理劇学会第23回大会（平成29年11月）における大会長講演並びに、学会誌「心理劇」における論文発表（平成30年12月）
学校現場や授業への研究成果の還元について	上述の通り

【提出期限】平成31年3月29日（金）正午：厳守